

第九十一回『M-1GP2025』と
『THE MANZAI 2025』



目次

第九十一回『M-1GP2025』と『THE MANZAI 2025』～G から U へ～	1
第九十一回『M-1GP2025』と『THE MANZAI 2025』～U から G へ～	4
はみだしウマシカさん その26	6

第九十一回『M-1GP2025』と『THE MANZAI 2025』～G から U へ～

前回の返信をすると、野生動物としてのヒトをどこまでコントロールできるかって話なんだろうと思う。理性と欲望をバランスよく制御するためには、やっぱヒトにAIチップを埋め込まないといけないのかもしれないね。

ところで今回は全く違う話。

Uは観てないかもしれないけど、俺がこの年末一番面白かった漫才は、『THE MANZAI 2025』のチュートリアル「妄想の家族が見える」ってネタだった。

漫才師の人格と演技と展開が三位一体かみ合ってて、やっぱり芸がある変人なんだなって確認できた。あと、Uが好きなミルクボーイもたけし賞もらってたけど、俺がよく言う「ズレてるけどズレてない」ってテクニカルな笑いの構造を一番簡潔に可視化したのが、ミルクボーイの形式だと思うよ。だから漫才師のキャラに依存しない、再現性の高い漫才でもある。

んでこっからUが観てないであろう、M-1の話。

優勝したたかろうのネタは、自信のない素人キャラのリアクションを笑うという、あまりズラしすぎない形式だった。俺の感覚だと、スリムクラブに近い。

その点、漫才なんだから当たり前に構図をズラし続けた、エバースやヤーレンズ、そしていつも通りズラし過ぎたヨネダ～や真空ジェシカは、優勝できなかつた。

「ここ、漫才師が何かをズラすこと自体が当然すぎて面白くないって可能性もある。または分かりやすいショート動画が流行る時代だから、長い話を理解しないと笑えない漫才の限界が来てるって考えられなくもない。視聴率も前回より高くなかったそうだし。」

「残念だったのは、俺はたくろうの自信なさげな演技 자체にちょっと引いてた。だって練習してんだろって思っちゃったから。漫才が演技ばっかになると、逆に正面からズラすネタが新鮮になる時代も来るんだろうと思う。」

「んで、エバースが優勝できなかつたのは、相方を腹話術の人形にして、途中でもう一個別の人形を出すつて話から急激に失速したからだよ。遠慮もあるだろうけど、そこ誰も言わないね。大事なとこなんだけどな。」

「単に、腹話術の人形としてはあるまじきセリフを町田に言わせ続けるだけで優勝できたのに。一番オーネドックスなやり方を、エバースはズラしてしまつた。」

「とはいえる、普段は受けてたネタで緊張してたらしいし、本当は別のをやりたかったみたいだから、まあここで余計なおせつ介入するのも気が引けるんだけど。」

「でも、妄想のウマシカでは「はみだし」で勝手にエバースを優勝させます。歪んだ愛情表現だから、ごめんなさいって先に謝つとります。」

「ちょっと雑な部分あるけど、四千頭身とか二人組ジャンポケみたいにキャラが迷走しないように、お互いのキャラを活かしてうまくやつてほしいと思って、大してテレビ観ないウマシカなクセにおせつ介入してみました。」

「今日はこんな感じ。どうかな?」



第九十一回『M-1GP2025』と『THE MANZAI 2025』 （UからGへ）

確かにM-1はテレビでやってたけど、本戦か予選かもよく分からず、うるさく感じたから観てなかつたわ。YouTubeではお笑い見るのに、最新のM-1を観てもおもろく感じないのはなんなんだろうな。エバースを勝手に優勝させるヤツ読んだよ。これは正直ウケた。テレビで放送しない方が良いかも知らんし、引き攣った笑いになるかもだけど、そんなシーンをイメージするとなおオモロい。俺は好きだな。その漫才。

友

はみだしウマシカさん その26

（腹話術は子どもを引かせてはいけないって町田のところから）

「腹話術なんだから、もっと夢のあること言わないとダメだろ」

「じゃ、子どもたちからの質問に、夢のある答えをしよう。じゃはい、質問ある子、あ、そのキミ。うん。好きな食べ物は何ですか。さあ、なんだろう？」

「（腹話術）ボクの好きな食べ物は、女優さんたちが食べた鍋の残り汁だよ」

「待て。それじゃ子供たちドン引きだろ」

「でも町田にとつては夢じゃん」

「…人間町田にとつてはな。でも子供たちにとつては悪夢でしかないだろ。そうじゃなくて、俺は人形なんだから、もっと人形らしい夢だろ」

「あ、町田人形にとつてね。町田にも人形としての自覚が芽生えてうれしいよ」

「…おおよ！」

「じゃ、好きな食べ物は何ですか？」

「（腹話術）ボクの好きな食べ物は、リカちゃん人形のクシに付いた抜け毛を、ペロペーロ、ペロペー口すること……」

「待てって！ それも子供たちドン引きだろ」

「でも町田を人形にしたらそうなるじゃん」

「…なるよ。でもとにかく違うよ。綿アメとかでいいんだよ。ってかさ。それで甥っ子の名誉は回復するかもしれないけど、俺の名誉はどうなるんだよ。俺がどんどん薄汚れた人形になることで、俺ら二人の名誉も泥にまみれるだろ！」

「あ、そこは大丈夫。何の心配もない」

「なにが？」

「俺らエバースは、町田の無自覚に汚れたキャラで成り立ってるから。むしろもっと際立たせないと」「え、どういうこと？」

「だつて町田ってほつといたら、全くためにならない説教を女芸人にダラダラしそうじゃん」

「は！ しないよ。：いや、するかもしけんが」

「だつて町田ってほつといたら、このM-1で優勝したら、合コンの初めから終わりまで一生自慢話しそうじゃん」

「…するよ！ させろよ、俺だつてエバースだよ！」

「だつて町田つてほつといたら……」

「町田をほつとくな！ わかったから。佐々木は町田を握つてろ！ 町田を街に解き放つな！」

「…わかった。でも甥っ子が腹話術に飽きるまでだからね。わかった？」

「（腹話術）ありがとう佐々木。これからもよろしく！」

「どうも、佐々木と町田人形でした！」

「そこはエバースだろ、もういいわ」

「ありがとうございました」

考えるウマシカ～ 第九十一回 『M-1GP2025』と『THE MANZAI2025』～

著 者 弦楽器イルカ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
